

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 4年間の演習教育の各段階で求められる到達目標を明確化する	→ 4年間の演習教育の各段階で求められる到達目標への学生の到達度	B	B			
2. 講義科目(3系7領域科目)の順次性・段階性を明確化する	→ 講義科目(3系7領域科目)の順次性・段階性の明示と、学生の履修状況	B	B			
3. 初年次教育(基礎演習、社会学リレー講義)の成果を検証し、必要な改善を行う	→ スタディスキルの修得と、学部教育への展望の獲得についての教員の評価および学生の評価(授業評価)、具体的改善内容	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 教育課程の編成・実施方針に基づき、A群科目(必修科目)としてキリスト教科目、言語教育科目(必修)、アカデミック・プレパレーション科目(基礎演習、社会学リレー講義)、インターミディエイト・スタディーズ科目(インターミディエイト演習)、アドバンスト・リサーチ科目(研究演習、卒業論文)、B群科目(選択必修科目)として3系7領域科目、リサーチ・講読科目、およびC群科目(自由選択科目)を適切に開設している。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 初年次教育では、「基礎演習」によってスタディスキル(大学で学ぶための基礎的技能)を身につけさせる教育内容を、「社会学リレー講義」によって幅広い学部教育への展望を与える教育内容を提供している。なお、「基礎演習」については、全担当者から成る「基礎演習編成会議」(月一回開催)において教育効果を検討し、(教育内容および教育方法についての)必要な改善を行っている。また、「社会学リレー講義」については、コンビーナー(2名)を中心に、学部長室委員会および教授会において教育効果を検討し、教育方法や教育効果測定の方法などについて、必要な改善を行っている。
その他	

《評価指標データ》

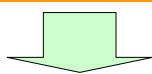
MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○特になし

【学内委員】

○目標に向けて適切な活動が行われていると思われます。

○目標とする教育内容に沿った授業科目が適切に開講・実施されている点は評価できます。初年次教育の内容についても定期的なチェックと改善が行われている点は評価できます。いずれの項目も進捗評価がBとなっていますので、より良い改善のために、今後も積極的な取り組みを期待します。

○「基礎演習」「社会学リレー講義」について、教育効果を検討し、教育方法や教育効果測定の方法などについて、必要な改善を行っていることは大変評価できます。

○目標の着実な進展と達成に期待します。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

・学生の順次的・体系的な履修への配慮

・各学位課程の固有の課題に応える措置(例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など)

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし